

家庭で できる **学力アップ** プロジェクト

県教育委員会では、平成26年度から「とちぎっ子学習状況調査」を実施しています。これまでの調査結果から、学力と家庭での学習や過ごし方との間に、深い関係があることが分かってきました。本資料では、特に、学力と関係が見られる「7つの習慣」をお示しします。

チェックして
みましょう！



学力を伸ばす

7つの習慣

✓ 家庭での学習

- 授業の復習をしている
- テストで間違えた問題を勉強している
- 学校の宿題のほかに自分で考えた勉強をしている
- 自分で計画を立てて勉強している

✓ 家庭での過ごし方

- 時間を上手に使うことを心がけている
- メールやインターネット、ゲームをする時間が少ない
- 家の人と学校での出来事を話している



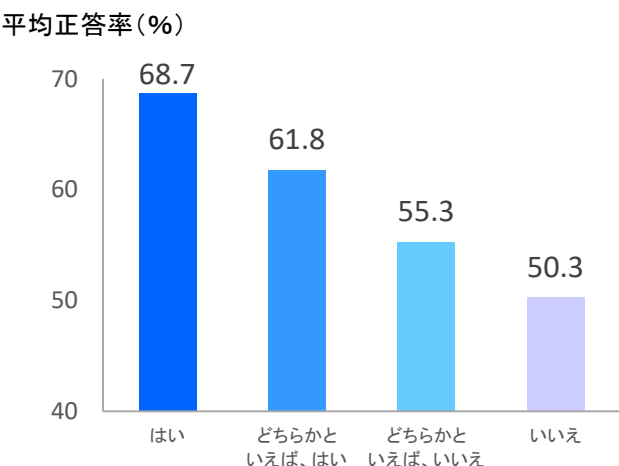


学力と家庭での過ごし方にどんな関係があるの？

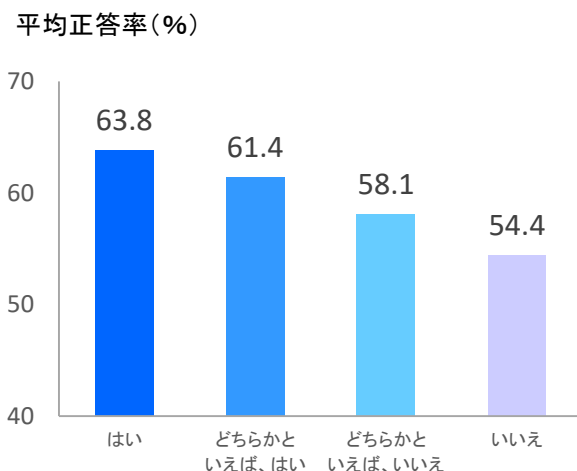
とちぎっ子学習状況調査は、中学校2年生を調査対象として、毎年4月に、教科に関する調査（国語、社会、数学、理科、英語）と家庭学習や生活習慣などについての質問紙調査を実施しています。

県全体での、教科に関する調査結果（平均正答率）と質問紙調査の回答を関連付けて分析すると、平均正答率と生徒の回答状況の間に関係が見られました。ここでは、その関係について、質問紙調査「テストで間違えた問題について勉強していますか？」を例に、下のグラフを使って紹介します。

質問：テストで間違えた問題について勉強していますか？



質問：時間を上手に使うことを、心がけていますか？



【グラフの見方】

縦軸は平均正答率、横軸は上の質問に対する生徒の回答です。

左のグラフを例にすると、質問に対して「はい」と回答した生徒の平均正答率が68.7%、「いいえ」と回答した生徒の平均正答率が50.3%ということを示しています。

※ グラフは、国語、社会、数学、理科、英語の5教科をまとめた平均正答率と質問紙調査の回答結果の関係を示しています。

上のグラフから、どちらの質問に対しても、「はい」「どちらかといえ、はい」と肯定的な回答をしている児童の方が平均正答率が高い傾向が見られることが分かります。

とちぎっ子学習状況調査の結果から分かることは学力の一部ではありますが、このような分析を通して見えてきた特徴をまとめたものが、「学力を伸ばす7つの習慣」です。本資料を活用し、家庭での学習や過ごし方など、これからの生活についてお子様と話をしてみてください。